

デイリー・ジーザス・ニュース #236

イエスのエルサレムへの最後の旅

イエスは奉仕型リーダーシップを命じる

MT 20.20-28 (並行テキスト : マルコ10.35-45)

20^{MT} するとゼベダイの子らの母が息子たちを連れてイエスのもとに来た。^M ジエームズとジョンに会い、彼の前にひざまずいてお願い事をしました。

彼らは言いました。「先生、私たちがお願いすることは何でもかなえてください。」

21^{MT} 「何がほしいの 私に何をしてあけましょうか？」 彼は尋ねた。

^{MT} 彼女は言った。「私のこの二人の息子のうち一人をあなたの右に、もう一人をあなたの左に座らせるように命じてください。^M の栄光。

22 イエスは彼らに言わされた。「あなたたちは、自分たちが何を求めているのか分かっていない。私が飲もうとしている杯を飲むことができるだろうか。^M それとも私が浸かっている浸水に浸かるのですか？」

「できます」と彼らは答えた。

23 イエスは彼らに言わされた。「あなたは確かに私の杯から飲み、私が浸す浸礼を受けるであろう。^{MT} しかし、私の右か左に座ることは、私が許可するものではありません。これらの場所は、私の父によって常に用意されている人々のものです。」

24 十人はこれを聞いて、二人の兄弟に対して憤慨した。25 イエスは彼らを呼び集めて言われた。

」ご存知でしょう^M とみなされる人々 異邦人の支配者たちは人々に対して威張ることを習慣にしており、彼らの高官たちは常に彼らに対して権威を振るっています。26 しかし、私はあなたたちの間ではそうならないように命じます。

」むしろ、あなたがたの中で偉くなりたいと思う者は、あなたがたに仕える者になりなさい。27 そして、あなたがたの中で第一になりたい者は、あなたがたの奴隸になりなさい。28 人の子も仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人のための贋いの代価として自分の命を与えるために来たのと同じです。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ =^{MT} 、マーク=^M 、ルカ =^L 、ヨハネ =^J 、使徒行伝 =^A 。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、赤いイタリック体はイエスの言葉を示します。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト

位置

ペレアからエリコへの道

デイリー・ジーザス・ニュース #236

タイムライン	3月（38月）
イエスの生涯の文脈	第7段階：ペレアにおけるイエスの宣教 C. イエスのエルサレムへの最後の旅
タイトル	14. イエスは奉仕型のリーダーシップを命じる

コメント：

今日の聖書朗読には、イエスのもう一つの最も有名な教えが含まれています。 「あなたたちの中で偉大になりたい者は、すべての人に仕える者になりなさい。」 これは、イエスが約7か月前にガリラヤを去ったときに教えられた「王国における真の偉大さ」の教えの続きです（マタイ18章）。

どちらの場合も、イエスは十二使徒の信じられないほど不適切で傲慢な暴言を背景に、奉仕における偉大さについて語られました。イエスが説教の最後に彼らに思い出させたように、神の子であるイエスは「多くの人の身代金として命を捧げる」ことによって奉仕における偉大さを示すためにエルサレムへ向かっていた一方で、ご自身の弟子たちは永遠の至高の地位をめぐって互いに争っていたのです。なんと対照的なことでしょう！

ヤコブ、ヨハネ、そして母親が冒頭で述べた「先生、私たちが願うことは何でもかなえてください」という言葉は、非常に示唆に富んでいます。これは祈りにおける利己的な動機の一例です。ヤコブ牧師は後にこう書いています。「あなたがたは求めても与えられません。それは、自分の快樂のために使おうと、間違った動機で求めているからです。」（ヤコブ書4章3節）

一方、イエスの最も自由な祈りの約束の一つは、上記の願いと非常に似ていますが、一つ重要な違いがあります。「あなたが私の名によって求めるることは何でも、私が叶えます…」（ヨハネ14:13A）「あなたが求めるることは何でも」はどちらの場合も同じです。「私の名によって」という点が重要な違いです。

「名において」祈るということは、単に祈りの最後に「名において」と付け加え、自分の利己的な願いを叶えようすることではありません。むしろ、イエスの御心と御性質に添って祈ること、つまりイエスがご自身の代理人として、ご自身のために願われることを願うことです。それは、イエスご自身が心からご自身の祈りとして受け入れてくださる願いを捧げることです。ヤコブとヨハネ、そして彼らの母親は、明らかにイエスに「イエスの名において」ではなく、自分たちの名において願いを捧げていたのです。

イエスは、この世における典型的なリーダーシップとは権力の行使、つまり権威の下にある者に対して「威張る」ことであると述べました。特にイエスの時代においては、支配者は臣民に対して絶対的な権威を振るっていました。

「あなたたちの間ではそうであつてはならない」と命じられました。これは、神の国とは神のみが権威を認められる領域であり、神は愛だからです。神は民の益のため、すなわち彼らに仕えるためにのみ力を用いていました。

ディリー・ジーザス・ニュース #236

られます。イエスは、他の人々が必要とする言葉、行い、そして物を無条件に与えることを喜びとする、最も深い謙遜さをもって、すべての人の僕となるために来られました。

聖書には、イエスが神の力を自らの利益のために用いたという記述は一つもありません。イエスは父なる神の御力によって、ひたすら他者に仕えました。多くの人々のために自らの命を犠牲にされたことは、イエス自身の奉仕型リーダーシップの究極の表現でした。

私たちは、リーダーシップに対する全く異なる動機と姿勢において、イエスに倣うよう召されています。実際、私たちは世の模範に従うべきではないと命じられています。それは、すべての者の中で最も偉大な僕であるイエスの弟子たちの間には存在しません。

応用：

教会や聖職者の指導者は、時に世の習いに倣い、臣民に対して「威圧的」な態度を取ることがあります。あなたはクリスチャンの間で、そのようなリーダーシップをどれほど経験したことがありますか？

誰もが少なくとも自らの模範を通して誰かを導いているのです。さらに、家庭、学校、職場、教会、そして社会において、私たちは他者に奉仕する責任を負っています。

サーバント・リーダーシップに関するイエスの教えは、あなた自身のリーダーシップスタイルにどのような影響を与えているでしょうか。イエスに倣うために、あなたは何を調整する必要があるでしょうか。